

寒締めほうれんそうの作期判定と生育調節技術

【1 成果概要】

県内の主要地点で、糖度が上がり始める日（地温 8℃以下になる日）は概ね 12 月上旬です（表 1）。

温度-生育モデル によって、メッシュ単位での作期判定が可能になります（表 2）。

温度-生育モデル は生育予測ができるほか、栽培管理（ハウスの開閉などによる温度管理）の指標として利用できます（図 1）。

表 1 各地域における寒締め開始可能日の算出結果

地域	寒締め開始可能日	
	90%可能日	80%可能日
軽米	12月9日	12月2日
久慈	12月13日	12月10日
雫石	12月9日	12月1日
北上	12月13日	12月10日
千厩	12月13日	12月5日
西根	12月9日	12月1日
遠野	12月9日	12月1日

表 2 温度-生育モデル を利用した作期判定例（軽米）

ハウス管理 播種日	寒締め出荷可能年の割合(%)								
	ハウス開放管理			ハウス閉切管理			ハウス閉切管理+保温		
	可能	過大	過小	可能	過大	過小	可能	過大	過小
9月20日	32	57	11	0	100	0	0	100	0
9月25日	82	4	14	14	86	0	0	100	0
10月1日	18	4	79	82	18	0	32	68	0
10月5日	11	0	89	82	0	18	93	7	0
10月10日	4	0	96	57	0	43	89	0	11
10月15日	0	0	100	21	0	79	71	0	29
10月20日	0	0	100	11	0	89	50	0	50

注)「過大」は大きくなりすぎて出荷規格を外れる年の割合、「過小」は小さすぎて出荷規格を外れる年の割合を示した。「可能」は寒締め出荷可能年の割合を示したもので、80%以上になる日を適正作期と判断した。

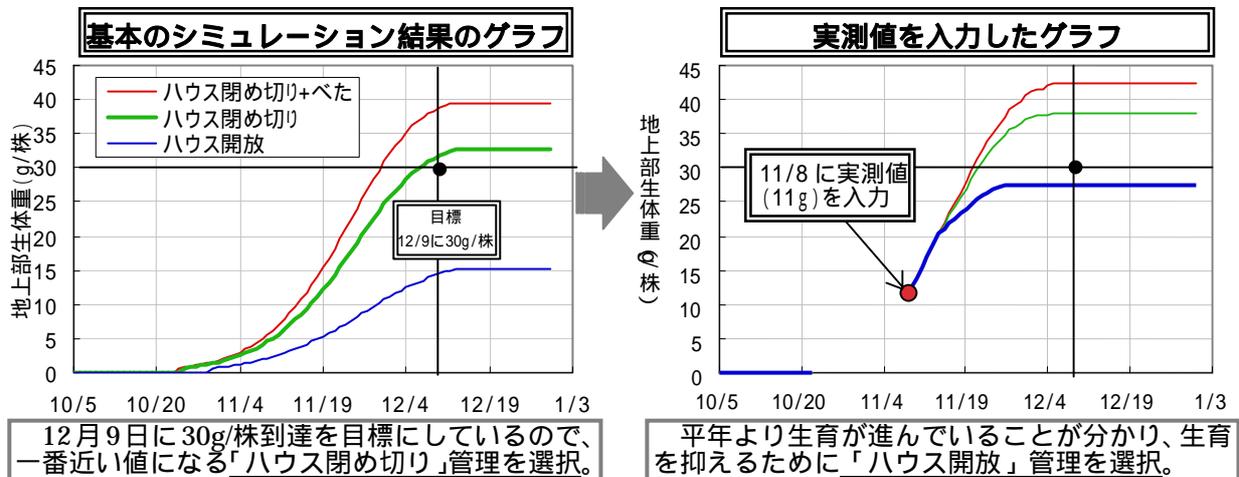


図 1 温度-生育モデル の利用例（軽米：10月5日播種・12月9日に30g/株を目標）

【2 効果】

- 1 寒締めほうれんそうの安定生産・安定出荷（適期播種と適切なハウス管理が可能となるため）
- 2 寒締めほうれんそう生産農家の所得向上（上記1の理由による）

【3 留意事項】

この 温度-生育 モデルは品種「まほろば」にのみ適用できるものです。「朝霧」については現在、データを収集中で、今年度中に作成する予定です。

【4 適応対象】

品種「まほろば」を用いて寒締めほうれんそうを栽培している産地の営農指導担当者